

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年12月25日更新

事務事業名		し尿運搬費補助事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	4	生活環境の健康			所属部	市民生活部	課長名	岡田 光弘
	施 策	18	住環境の充実			所属課	環境衛生課	担当者名	大久保 隆一
	施策の柱	56	環境衛生の充実			所属班	環境衛生班	(内線)	1144
予算科目		会計一般	款 4	項 2	目 1	事業連番 11474	根拠法令	合志市し尿運搬費の補助に関する条例	
終了、開始年度		☐ 31年度で終了 ☐ 31年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	昭和60年にし尿関係事務を市町村で行うことになり、市外で処理するため収集運搬費の助成が必要となった。収集したし尿をクリーンセンター花房まで運搬した量に応じて補助金を交付する。下水道の普及が進み、汲み取り世帯は減少している。 ※補助額：10ℓにつき10円(税別)、令和2年度より10ℓにつき20円(税別)
【業務の流れ】	請求書受付、量の照合、支払事務
【主な予算費目】	役務費(切手代)、負担金補助及び交付金(補助金)
【意見や要望】	なし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動)(DO) し尿収集運搬業者に補助することで、円滑な事業運営が図られた。令和元年度のし尿運搬実績は2,358ℓ。		2年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 請求書受理、量の照合、支払事務	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
⇒ ア 請求件数	件	し尿運搬量の補助額を、10ℓにつき10円から20円に改正予定のための増	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
取扱業者		⇒ ア 取扱業者数	業者
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
し尿を適正に処理する		⇒ ア し尿収集量	Kℓ
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠 収集運搬するし尿の量に対し補助金を交付する事業のため、成果指標を「し尿収集量」とした。成果指標の目標値の設定については菊池広域連合広域計画から計上した。			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	29年度 実績(決算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	3年度 予定	4年度 見込	5年度 見込
① 活動指標	ア 件	件	12	12	12	12	12	12	12	12
② 対象指標	ア 業者	業者	1	1	1	1	1	1	1	1
③ 成果指標	ア Kℓ	Kℓ	2,453	2,381	2,480	2,358	2,350	2,350	2,350	2,350
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	2,659	2,581	2,730	2,581	5,107	5,000	5,000
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	2,659	2,581	2,730	2,581	5,107	5,000	5,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	158	256	956	634	956	956	956
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正 規 職 員 従 事 人 数	人	4	4	4	5	4	4	4
		延べ業務時間	時間	40	65	240	160	240	240	240
	(B) 人件費計	(B) 人件費計	千円	158	256	956	634	956	956	956
		トータルコスト(A)+(B)	千円	2,817	2,837	3,686	3,215	6,063	5,956	5,956

事務事業名	し尿運搬費補助事業	所属部	市民生活部	所属課	環境衛生課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は31年度の後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②2年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 し尿収集運搬量の照会をしているので、目標達成の見込みはある。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 し尿収集量に応じた補助金を交付しているので、向上の余地は無い。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業なし。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 下水道の普及により収集量が減少し、補助金額が減っていたが、昨年度浄化槽設置者のうち、定期点検および清掃等を行っていない世帯に対し通知等を行ったため、浄化槽汚泥の量が増えた。 一定期間周知をし、適正管理が浸透すれば搬入量の減少による事業費減が見込まれる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 支払関係事務のみである。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 一般廃棄物のし尿収集運搬は市が行う事務である。し尿の処理施設が市内にないため、市外の処理施設まで運搬に対する補助金の交付は適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 一般廃棄物であるし尿収集運搬は市の事務であるため、適切である。

3 評価結果の総括（CHECK）

年間を通じて、し尿運搬量に応じた補助金交付を確実に行った。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）					
</									